

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201627
法人名	株式会社ケア・グループ
事業所名	グループホーム花丘
所在地	高崎市南大類町1307-6
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成28年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念を職員一人ひとりが常に頭に置き、利用者様一人ひとりのその時に合わせた対応を心掛け、安全・安心・穏やかに暮らして頂けるよう最善の注意を払い「利用者様の言葉を絶対否定しない」を合言葉に支援させて頂いています。
また食事は専門スタッフを配置し、畑で取れた野菜や果物を使用したり、利用者様に季節も感じて頂けるよう工夫し心を込めて作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の意味を言葉だけでなく、一人ひとりの職員の意識としてどう捉えているのかを確認するため、年に2回理念にある「人格尊重の介護・使命感を持った職務遂行」等の4項目について、自らの考え方を記載する機会を設け、職員自身のケア実践上の振り返りとともに、事業所としての職員個々の経験則等による理解度の把握に努めている。身体拘束しないケアについても理念実現を常に意識し、管理者は、「あなたが今そう言われたらどう感じるか」など、現場でケースに応じて職員個々に気づかせる指導を徹底している。食事の提供にあたっては、3人の専門職員を配置し、無農薬のお米を始め安心安全な食材を調達して、季節を意識してもらえらる献立を工夫するとともに、手作りの「青菜ミルク」を提供して、薬に頼らない排便コントロールに繋げ、利用者の負担軽減に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝引継ぎ時に皆で唱和し確認しています。また、新職員に対しては少し慣れた頃、他の職員も半年に一度程の期間で理念について改めて考えてもらい、文章化し提出してもらっています。	理念の真意を理解することが難しいことから、年2回個々の職員に理念にある項目について、自らの考えを記載してもらうとともに、「喜ぶ言葉・その時の反応?」「言ってはいけない言葉・何故?」などを記録してもらい、介護者としての振り返りと、資質の向上等に役立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内子供会による廃品回収に協力しています。また中学校の課外授業(職場体験)の協力などで交流しています。	事業所の花火大会に子供達が参加したり、職場体験の学生や授業での「地域の地図作り」に生徒たちが訪れたりなど、事業所の様子を知ってもらう機会となっている。回覧板等で、地域の行事を知る機会はあるが、介護度が上がり参加が難しくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などに民生委員の方に出席して頂き情報交換をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で提案された事や話し合った事などを共有し、御家族にもお便りとして送らせて頂いています。	会議は参加しやすいよう、土・日曜日に開催されている。家族は3家族ごとに順番で参加をお願いし、参加予定の立てやすい配慮をしている。「足腰の衰え対策としての足挙げ体操・感染症対策のマスク・手洗いの徹底・事業所の近隣者への避難所提供」等、会議での提案が実現されている。	会議毎にその時々テーマを定め、内容が雑談で終わることのないよう、有効な内容実現に向けた工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症などの流行情報や注意などのパンフレットを頂いたり、毎月相談員に訪問して頂いています。また研修に参加するなどして取り組んでいます。	職員は各種のテーマに応じた研修会に参加し、研修結果は実践に基づいた検証も行い、実践の共有化が図られている。ケアマネジャーは更新手続き等、各種申請や相談に窓口を訪れ、良好な関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を何故してはいけないのか、という事を常に考え支援するよう施設内研修などで指導しています。	なぜ身体拘束をしなくてはならない環境なのかを先ず考え、「利用者への指示は全て虐待」を基本に、「何う」ことを第一にしている。ケアのなかで、言葉であっても拘束と考えられる場面は、管理者は職員に体験してもらい、職員自身が実感することで、利用者本位の支援実現に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待について理解を深めてもらったり、日々職員同士で「これは虐待にあたらないか」という事を考えながら支援するよう指導しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、そこで得た知識を皆で共有しています。 現在、成年後見人制度を利用されている方がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明し疑問点などについてはその都度対処しています。 内容の変更などは速やかに書面や来所持に説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や運営推進会議などで提案された事や要望などは全御家族へ文書で発送しています。	面会時等に家族には利用者の日ごろの生活状況を細かく報告し、意見・要望等を聞く機会としており、必要に応じて、ケアマネージャーも電話で家族に説明するなど緊密な関係を築いている。	事業者として、家族に運営面での話題等を提供して、具体的な提案等が出しやすい機会づくり・環境づくりを検討することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて行われますが、代表者の来所持にも疑問・問題点などについて意見交換しています。	毎月6日に、全職員参加の職員会議を開催している。毎月3人ずつのカンファレンスとともに、「使用しやすいベットへの入れ替えや希望休取得」など、職場環境整備等を全員で協議・検討している。法人代表者が月1回は来訪し、職員が各種希望等を提案する機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修を受けさせケアの力量を向上させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会組織のネットワークの中で、相互訪問や勉強会に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に御本人や御家族からの不安や要望などについて十分に話し合い、日々良いサービスやケアが出来る様に努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのような生活を希望されているか問題点や要望などを話し合うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の不安や要望に今 何が必要なのかを相談しながら見極め、サービスやケアの内容に活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は私達の家族という思いで介助・支援をさせて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子などをお便りや写真などにして御家族の元へお知らせしています。また来所持には日々の様子なども丁寧に伝えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族と花見や外食などに出かける事があります。	本人の希望で、空き家になっている家を見に行ったり、墓参りに出かけたりしたこともあるが、高齢で介護度の高い利用者の現状では、馴染みの途切れない関係作りを積極的に実施する困難さを痛感している。事業所が自宅という状況づくりを家族とともに形成し、家族や友人が何時でも来られる環境づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされる事は少なく、皆様ホールで一緒に過ごされています。(利用者様の希望にて)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に転居先へ訪問し様子を伺いに行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様にアンケート調査を行い、意向や希望を聞き支援に活かしています。意思表示が難しい方には御家族に聞いたり、カンファレンスで話し合い把握に努めています。	日常のケアのなかで、利用者の本音を拾い、連絡ノートに記載するとともに、満足してもらえたケースなど、職員間で話し合っている。	成功例・失敗例等、各種ケア例を書きとめ、記録できる工夫を検討することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を基に、御本人の生活史や生活習慣を聞き、経過に応じたサービスを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活内容が分かるチェック表があり、水分・食事摂取量、排便、内服などの現状把握が出来るようになっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時にカンファレンスを行いケアプランを作成しています。状況に応じたモニタリングをし、変化があった時には見直しを行っています。	ケアマネージャーは、入居時の本人・家族のアンケートや職員の気づき等を記録して、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、全職員のカンファレンスを経てプラン案を作成し、管理者・職員の意見交換が行われてプランが完成されている。	毎月のモニタリング事項がプランのサービス内容に沿った評価に繋がるよう、検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノート等を活用し、職員全員で情報を共有し見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望や外出希望など、職員同行で対応できるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年の春頃、近所に引越して来た方が散歩中に、利用者様が居室より窓越しで手を振っていたとの事で来所して下さり、居室でお茶を一緒に飲むなどの時間が時々出来るようになりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	幾つかの病院やクリニックと提携しており、その時の病状に対応した医療が受けられる様、支援しています。	ほとんどのの方がかかりつけ医を持っていないため、入居後は協力医の月2回の往診を全員が受診している。薬の変更や日常の状況を、個々の家族向けに作成して、毎月の「お知らせ」等で家族に説明している。通院は家族とともに職員も同行し、日常の生活状況等の説明を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回の往診時に医師の指示を受けています。 変化があった場合、速やかに対応するよう心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中においては、担当看護師やケースワーカーなどと連絡を取ったり、出向いて情報交換や相談をし、利用者様が安心して治療を受けられるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に関し、御家族との話し合いを行い、現在文書を作成し署名して頂いています。	継続的な医療行為が出来ないことや、看取りのための医師の確保がむずかしいため、看取りケアは実施されていない。早い段階から重度化への取り組み方針の取りまとめや、家族への理解の具体的方策の検討を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを提示し、講習や研修などを定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練や消防署指導の下での消火訓練を定期的に行っています。 スプリンクラーや自動通報装置・警報装置等の設備も完備しています。 地域の方々にも協力をお願いしています。	昼夜とも想定した避難訓練を実施している。 消防署指導のもと、全職員が参加可能な職員会議時に避難訓練も行っているが、地元住民への具体的参加要請には至っていない。事業所を地元の避難場所と考えており、米・水・乾物類等の備蓄がなされている。	地域住民の避難訓練への参加要請と同時に、もしもの時に備え、具体的な役割分担を話し合う機会づくりを検討することを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合った対応や言葉掛けを心掛けています。	理念を基本に、利用者の羞恥心を常に考え、信頼関係を大切に言葉かけを心かけている。年2回の職員個々の理念への記述による振り返り(職員アンケート)等、自己分析・自己評価に努めることで、職員の共有化も図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援・介助させて頂く際は 常に御本人に確認しています。 言葉が出ない方へは表情などを注意深く見たり、思いを探るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室・食堂・ホールといつでも自分のいたい場所できつろげるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容はもちろんですが、美容師による出張カット・整髪などを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりの摂取しやすい状態で、季節旬の食材を使った食事を職員と一緒に楽しく頂いています。 行事食などもあります。	3人の調理専門職員を配置し献立・調理を行い、米は近隣の農家から無農薬米を購入し、専門業者からの食材の搬入を行い、安心安全な食事を提供している。職員は利用者の食事のペースに配慮し、会話をしながら同じものを食べている。行事食は、利用者とともにつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食・刻み食・ミキサー食・粥など一人ひとりに合わせた形状で摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の起床時と毎食後に口腔ケアをして頂いて居ます。(介助・一部介助・促し) 夜間は義歯をお預かりして洗浄剤にて消毒していますが、希望されない方の物は洗浄後 速やかにお返ししています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握し、その状態に合わせ声掛けや介助をしています。	医師と相談しながら、極力薬に頼らない排泄支援に取り組んでいる。自立排泄実現を基本に、自前の小松菜と牛乳による「青菜ミルク」を提供している。夜間はパット使用の方はいるが、日中はパターン表をもとに、全員がトイレ使用時間に関係なく、便座に座って排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在 整腸剤使用者0名 青菜ミルクの摂取や水分を多めに摂って頂いたり、運動を確りして頂き、日々リラックスし笑って過ごして頂けるよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前中と決まっていますが、外出や受診などもあり、希望される方があれば随時(夜間は除く)入浴できるようにしています。	入浴は週3回、午前中を原則としているが、利用者の希望を優先している。入浴中、歌を歌ったり、職員と1対1で会話が弾んだり、楽しい入浴時間を過ごしている。ゆず湯や木酢液をいれるなどの工夫があり、入浴拒否者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも休息が取れるようにしています。気持ちよく眠れるよう環境にも気配りしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の内容について主治医に相談や確認をし、症状の変化などに注意を払い内服できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみを手伝ってもらったり、散歩や果物の収穫に出たり、レクリエーションで運動やボール投げ、歌を唄ったりして気分転換をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度、花見ドライブや果物狩りに出かけたり、ボランティアの方々と一緒に散歩に出たり、時には御家族と出かけたりしています。	事業所周辺を日常的に散歩し、気分転換に繋がる支援が行われている。月1回のドライブには、現地でお手伝いいただくボランティアと落ち合うなど、双方の負担軽減の工夫も行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かっていません。 希望される方があれば、預かり出納帳を付けるなどのお手伝いをします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話の使用は可能です。 手紙のやり取り等が出来る方があれば支援します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月 季節に沿ったカレンダーを作り、年中行事も取り入れています。	共用空間には整理された大きめの行事時の写真等が飾られ、秋は十五夜飾りで季節感が演出されていた。ソファや机などの家具の移動も利用者の混乱を考慮して、利用者とも十分話し合うなど、慎重な対応がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はもちろんですが、ホールでTVを観たり、食堂のテーブルでパズルや将棋などを自由に出来るようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人や御家族に使い慣れた物を持って来て頂くよう お伝えしています。	居室の入り口には、表札とともに本人の写真があり、確認しやすい配慮がなされている。居室には昔の写真や使い慣れた寝具を持参している。入居時、利用者の状況により部屋変えの可能性について話し合われていて、トイレ利用の頻度等で実施されるなど、個別対応に努力している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレなど大きな文字で表示しています。 家具などの配置も考え、移動されやすいよう安全に気をつけています。		